

調布市内には、71の障がい児・者の通所施設があります。そのほとんどの施設が加盟しているのが「調布市福祉作業所等連絡会」です。

今回は、調布市の障がい者福祉を支えているこの連絡会の経営ネットワーク支援担当の松井久美子さんと、連絡会の代表者でNPO法人羽ばたく会めじろ作業所の施設長でもある大澤宏章さんにお話を伺いました。  
(広報課)

## 連絡会とは

調布市福祉作業所等連絡会は、市内の障害児・者通所施設のつながりを強め、福祉を推進させるために1992年に発足しました。2021年4月現在、35法人（社会福祉法人、NPO法人ほか）、65事業所が加盟しています。その加盟数は、調布市の福祉作業所の90%以上にのびります。

## 発足の経緯

きっかけは、それぞれ別の福祉作業所に勤める職員が、「別の福祉の現場にいても、情報交換ができたり、横のつながりをもてたらいいな」と語り合っていたことが始まりです。その第一歩として障がいの枠を越え、広いつながりをもてるよう連絡会が立ち上がりました。



## 連絡会があることのメリット

市のサービスや公共のサービス変更（例えば、今年度の介護報酬改定）があったときに、連絡会が市の方を招いて説明会を開くなど、連絡会で取りまとめて双方にとってよりよい方法をとれること。  
市が積極的に情報を流してくれるのは、何年も積み重ねてきた「情報を共有する」連絡会があったからこそだと思っています。

## ピンチをチャンスに！利用者さんとのコロナ対応

福祉作業所での仕事の売り上げは福祉作業所に通う方々の工賃になっていきましたが、コロナで仕事がもらえなくなったり、カフェも営業ができなくなっていました。  
そのため、「家でみなさんに何をしたらいいか」を考えるのに苦労しましたが、制作物を工夫したり、展示会を開いたりと新しい可能性を見出す機会にもなりました。

また、おひとり暮らししている障がいのある方はとても心細く不安な生活をされていたので、毎日2回連絡を取り、軽作業を頼むときには各ご家庭に持って行って、そのときに顔を見てお互いに「もうちょっとがんばろうね」と言い合って耐えていました。



## 新シリーズ 調布の福祉

# 第1回 調布市福祉作業所等連絡会

意外と身近な福祉作業所。それらをまとめる連絡会のこと、ご存知ですか？

## 連絡会の主な仕事

**共同受注**が大きな役割のひとつです。1つの事業所だけでは対応できないような大きな仕事に対し、調整して複数の事業所で協力することにより受注につなげていきます。各事業所、利用者の特性に合わせて複数の事業所で作業しています。

たとえば、市内全世帯へのごみリサイクルカレンダー配布、中央図書館と10の分館間を行き来する本の運搬といった仕事があります。調布市や民間業者からの受注もできるだけ平等に振り分け、皆で分担しています。

また、職員のスキルアップ研修会、事業所間の情報交換、調布市との連携を深めるために年1回市長との懇談、障害福祉課との情報交換もしています。

そのほか、職員の困りごとを、事業所をこえて共有し、解決していく取り組み（学習会・交換研修）も力を入れています。連絡会があるからこそスタッフどうしの顔が見える関係があり、そこで児童と成人の事業所がうまく連携して、先が見える支援もできます。



## やりがい

みなんで作り上げてきたネットワークを継続して、「障がい者のみなさんの地域生活を支える事業所」の「支え」になっていること

調布の障がい福祉の下支えをしているんだと実感ができる

ところ。市に対しても意見交換や現場からの率直な提言などができること。連絡会が調布の福祉を支えて発展させていくという思いを強く持っています。



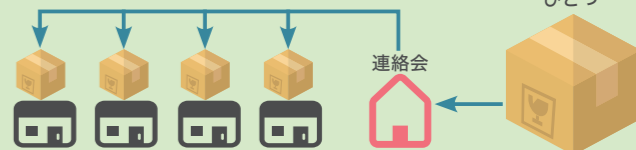
## みなさまへメッセージ

各事業所では障がいのある方が自分らしく、生きがいを持って活動しています。次回から事業所をまわり、どういった活動をしているかなどをご紹介します。

皆さんと同じ地域で暮らしている私たちの活動を知ること、より身近に感じていただけると嬉しいです。



▲「連絡会があってこそできる」と何度も言葉にされ、その存在の大きさや誇りを感じました。（左：松井さん、右：大澤さん）



大きな仕事ひとつ